

『楽しいお天気講座』の最近の活動と人工雪結晶再現性の向上

寺野健治・野上明子・陰山美加子・難波良彰・*箭川昭生・藤井 健（日本気象予報士会関西支部）

1. はじめに

日本気象予報士会関西支部は、2000年9月から小学生を中心とした子どもたちへの気象知識の普及を目的として「楽しいお天気講座」を開始した。以来10年余りの年月が経過したが、受講した子どもは2011年3月末現在延べ14,769名に達している。2005年度秋季大会では、この活動に対して奨励賞を受賞した。この講座については、諫山・富田（2003）、諫山・寺野（2005）、藤井ほか（2006）で紹介しているが、今回は最近の運営事情と実験手法の改善成果を紹介する。

2. 授業内容

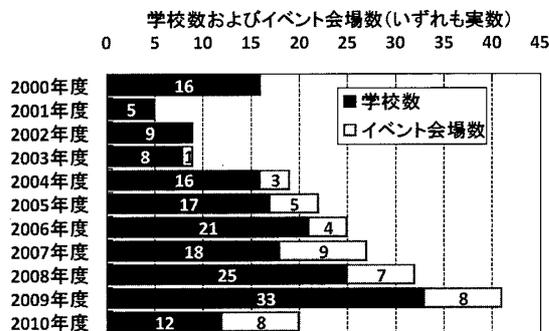
「楽しいお天気講座」は、主に小学校での出前授業としての開催と、公共施設での休日イベントとしての開催の二通りがあり、次の4種類を実施している。

- (1) 天気予報を学ぼう
- (2) 台風を学ぼう
- (3) 雲のでき方・雨の降り方を学ぼう
- (4) 雪を学ぼう

小学校の履修日程に合わせた要請や現象の季節性（秋：台風、冬：雪など）に応じて、適宜テーマを選定している。講義のみならず、計測器作動の実演や、種々の実験、天気予報の体験発表などを織り込み、体験型学習で印象と記憶の強化を図っている。

3. 活動状況

年度別出前授業学校数とイベント開催会場数を第1図に示す。



第1図 実施学校数とイベント開催会場数

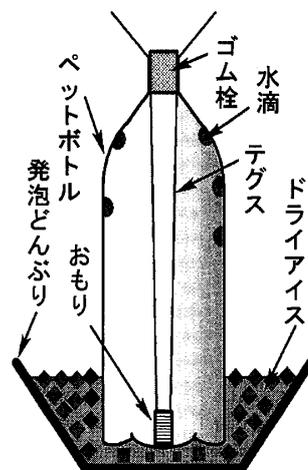
これによると、前回報告の2006年以降、実施学校数は、増加の傾向にあった。とくに、2009年度は33校（82クラス）と著しく増加した。このうちの16校

（42クラス）は、神戸市総合教育センターからの依頼により理科支援員等配置事業として実施したものであった。2010年度は、この事業が廃止され残念ながら12校に激減した。2011年度では助成金を3財団より受けることで9～10月に10数校で実施する予定である。

4. 人工雪結晶再現性の向上

当講座では、楽しく学習ができるように、いくつかの実験を組み入れている。その一つとして、平松式ペットボトル人工雪発生装置を参考に、オリジナルの実験装置を開発した。

ドライアイスで冷却する方法として、発泡どんぶり等を用いることにより、上部の水滴から発生した水蒸気を下部で局所的に冷却することにより（第2図参照）、人工雪結晶生成の再現性を大きく向上させることができた。



5. 今後の課題

2009年度までは総じて要請件数・実施件数ともに増加していたことから、現在も潜在的なニーズは高いと推察している。文科省の教育指導要綱の方針転換に伴い、学校の予算確保や授業時間の調整が難しくなると想像している。安定した活動財源の確保と、日程調整の自由度拡大の工夫に取り組みたい。

【謝辞】本活動に対して、(株)神戸製鋼所（コベルコ自然環境保全基金）、大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、積水ハウスマッチングプログラムの会から助成金をいただいている。これに対して厚く感謝する。

参考文献

- 諫山・富田：2003年度春季大会講演予稿集，180。
 諫山・寺野，2006：天気，53（1），61-63。
 藤井ほか：2006年度秋季大会講演予稿集，227。